



RIETI Discussion Paper Series 23-J-045

コロナをきっかけにした副業の特徴と ウェルビーイングに与える影響

川上 淳之
東洋大学

鶴 光太郎
経済産業研究所

久米 功一
東洋大学



Research Institute of Economy, Trade & Industry, IAA

独立行政法人経済産業研究所

<https://www.rieti.go.jp/jp/>

コロナをきっかけにした副業の特徴とウェルビーイングに与える影響^{*}

川上淳之（東洋大学）

鶴光太郎（経済産業研究所）

久米功一（東洋大学）

要 旨

本論文は、経済産業研究所 2021 年度「With コロナ・AI 時代における新たな働き方に関するインターネット調査」の個票データを用いて、新型コロナウイルスが副業の保有に与えた影響を明らかにする。調査時点で副業をしている雇用者の中で新型コロナウイルスをきっかけとするものは 42.8% に及び、その大半は収入減によるものであった。コロナきっかけで副業を必要とする人は、幸福度などのウェルビーイング指標がそうでない人よりも低い傾向がある。コロナ禍以外がきっかけとなる副業では、副業を保有することで副業を希望する人よりもウェルビーイングが高い傾向がみられるが、コロナきっかけによる副業では、その傾向はみられなかった。一方で、正社員の場合は、労働時間の短縮や職場の閉鎖・人員整理にともなう副業の保有は、スキル獲得や転職・独立を志向する傾向がみられた。その点からはコロナ禍による本業の仕事の縮小に対して、自律的にキャリア形成を図る目的で副業が選択されていることも示唆される。

キーワード：新型コロナウイルス、副業、ウェルビーイング

JEL classification : J22

RIETI ディスカッション・ペーパーは、専門論文の形式でまとめられた研究成果を公開し、活発な議論を喚起することを目的としています。論文に述べられている見解は執筆者個人の責任で発表するものであり、所属する組織及び（独）経済産業研究所としての見解を示すものではありません。

^{*} 本稿は、独立行政法人経済産業研究所（RIETI）におけるプロジェクト「AI時代の雇用・教育改革」の成果の一部である。本稿の原案に対して、経済産業研究所ディスカッション・ペーパー検討会の出席者、浦田秀次郎理事長、森川正之所長、伊藤新上席研究員、水野正人研究調整ディレクターから有益なコメントを頂いた。記して感謝申し上げたい。

1. はじめに

わが国において、「働き方改革」で副業を原則認めるように政策の変更が進められて以降、副業をするための環境が整備され、副業を認める企業が増加してきた。一方で、2020年以降流行が続いた新型コロナウイルスの感染対策である緊急事態宣言や自粛要請により、労働時間の抑制や休業する労働者が発生したことも、本業労働時間の短縮や休業により、収入が減少する労働者は、収入を維持するために副業を始めた可能性がある。また、対面による仕事が困難な状況においてテレワークの利用が拡大されたが、テレワークの利用による通勤時間の短縮や働き方の変化も、副業を持つ割合を高めたと考えられる。本論文は、新型コロナウイルスがどのようなきっかけで副業を促進したか、ウェルビーイングにどのような影響を与えていたかを明らかにする。

新型コロナウイルスによる副業の増加は、複数の統計から明らかにされている。総務省「就業構造基本調査」によれば、2017年から2022年にかけて副業率（有業者に占める副業を持つ割合）は4.0%から5.5%に増加し、副業を持ちたいと考える割合である副業希望率も6.6%から7.7%に上昇している（図表1-1）。この上昇傾向は、働き方改革以前の2017年とコロナ禍中である2022年の変化であるため、「働き方改革」によって副業を持つ環境が整備された影響とコロナ禍の影響の両方の効果が混在しているものであるといえる。その点を踏まえ、月次で副業の推移を追うことができる総務省「家計調査」による勤労者世帯の世帯主の副業率の推移をみると、2018年まで横ばいで推移していた副業率が、働き方改革による副業の環境変化が生じた2018年の後半から上昇し、新型コロナウイルスの感染拡大に対する緊急事態宣言が発令された2020年5月から更に上昇し、そのあとは横ばいで推移している（図表1-2）。二人以上勤労者世帯の世帯主という集計対象の違いはあるものの、時系列の変化として、働き方改革と新型コロナウイルスは、ともに副業を促進する影響があったと考えられる¹。他方、アンケート調査からも、コロナ禍において副業を持つ者が増えたことは示される。コロナ禍における働き方をインターネット調査から分析をしている鶴・川上・久米(2022)によれば、2021年11月時点で副業を持っている労働者のうち、新型コロナウイルスに関連して副業を持つ割合は約50%であった。

これまで、副業の研究においては、労働者個人のレベルで労働時間の長短や、スキル形成などの自己啓発意識が副業の保有に影響を与えることが分析されてきたが、それらの個人要因とは別に、マクロレベルの外的なショックにより副業が持たれることが、図表1-1、1-2の集計からは示唆される。コロナ禍における副業の増加は、本業の稼働時間の短縮による影響と考えられるが、これは感染対策のための特殊なケースではない。2008年の世界金融危機の発生時期に、稼働率が縮小する工場の労働者に対して副業が認められたように、急激

¹ 総務省「家計調査」は調査設計上の課題があり、回答者のバイアスや調査対象の組み替えがあることなども指摘されている（宇南山, 2011）点も注意する必要がある。

な景気悪化に伴う雇用の維持の施策として副業が利用されてきた²。

経済環境の変化に対する副業の保有は、収入の維持や雇用維持の観点から有用な雇用対策であると考えられるが、このような副業の保有が労働者のウェルビーイングにどのような影響を与えるかは、まだ十分に明らかになっていない。本論文は、新型コロナウイルスがきっかけとなり副業を持つことになった雇用者において、ウェルビーイングにどのような影響があったかを、2021年11月に実施されたインターネット調査である（独）経済産業研究所「With コロナ・AI 時代における新たな働き方に関するインターネット調査」を用いて明らかにする。また、新型コロナウイルスによって副業を持つことになった労働者がどのような目的で副業を持っていたかもみることで、コロナ禍による収入の減少に対して、必ずしも収入を増やすことのみを目的とするのではないことも示される。

次節は、副業を持つ要因に関する先行研究を概観する。第3節で分析に用いるデータの概要をみる。第4節でコロナ禍の副業がウェルビーイングに与えた影響、第5節でコロナ禍きっかけによる副業において、どのような目的があったかを明らかにする。第6節で分析結果のまとめと残された課題を示す。

2. 先行研究

労働経済学の枠組みで副業を分析した初期の研究である Perlman (1966)は、本業の労働時間の最適化問題において、労働時間の選択に上限が存在する労働時間制約があるときに、本業よりも賃金率が低い副業を持つ選択を行うことを示している。これは、労働時間が短い時に副業が保有されることを意味しており、Shishko and Rostker (1976)、Conway and Kimmel (1998)、日本のデータを用いた分析では川上(2017)で実証されている。この関係は正社員の副業率が2.7%であるのに対して平均して労働時間が短い非正社員の副業率が7.3%とより高くなっていることから示される³。

最近の研究では、副業の保有動機について金銭的目的以外のものも注目されている。それらの研究をまとめている Panos, Pouliakas, and Zangelidis (2014)によれば、従来の収入を目的とする動機の他に、芸術活動を副業とするような、副業の仕事の内容そのものを嗜好する動機 (Heineck, Heineck, and Schwarze, 2004; Casacuberta and Gandelman, 2012)、副業を通じたスキルの向上を目的する動機などが挙げられる。副業を通じたスキルの向上にはその動機が重要であることを示す研究もある(川上, 2021)。

他方、ミクロレベルの個人の就業環境によって副業が選択されるケースとは別に、マクロレベルの経済環境が副業の保有割合に影響を与えることを分析している研究に、Amuedo-

² 2009年2月5日の日本経済新聞朝刊は、富士通と東芝が減産を行なっている半導体の工場社員に対して原則禁止である副業を容認したことを報じている。3月には日産で副業に関する労使合意がされたことが報じられている。

³ 総務省「令和4年 就業構造基本調査」の集計より。なお、正社員は非正社員と比較して副業を持つことを禁止されている傾向が高いことも、正社員の副業率が低い要因となる点も留意する必要がある。

Dorantes and Kimmel (2009)がある。Amuedo-Dorantes and Kimmel (2009)は、1979年時点で10, 20代の若者を対象に継続的に調査しているアメリカNLSY (National Longitudinal Survey of Youth, 1979)を用いて、1980年代において不況時に女性の副業率が高まるという、副業と景気との間に反循環的な関係を明らかにしている。

Amuedo-Dorantes and Kimmel (2009)は、その解釈に2つの要因を挙げている。1つは、Renna (2006)が指摘している仮説で、景気の悪化によって本業の労働時間が減少するために、総労働時間を確保するために副業が保有される。そして、失業するリスクを回避するためのヘッジとして、副業を持つことを選択するという要因を挙げている。このリスク回避要因は、Wright, Dolado, and Hart (1997)がBHPS (British Household Panel Survey)によって、実証的に検証されている。

一方で、近年は新型コロナウイルスが副業に与えた影響を分析する研究も蓄積されつつある、Asravor (2021)はガーナにおいて、コロナ期に副業が増加しているという状況を受けて、ロジットモデルの推定結果から、男女ともに本業における経済的困難性に対処するために副業が保有されていることを明らかにしている。Khera and Kumar (2023)はインドのハリヤーナ州の労働者から得ているデータを用いて、従来副業の保有には収入面以外にキャリアの成長機会や時間活用などの様々な要因によって保有される傾向があったが、新型コロナウイルスは、金銭面の必要性によるプレッシャーにより副業の保有が促進されていることを明らかにしている⁴。

これらの研究は、分析対象が特定の地域に限られており、まだ十分に蓄積されておらず、副業保有と新型コロナウイルスとの関係については、まだ十分に明らかになっていない。この点をふまえて、本論文は、新型コロナウイルスがどのような経路で副業の保有に影響を与え、それが主観的なウェルビーイング指標に与える影響を示すとともに、コロナ禍においてどのような要因で副業が持たれていたのかを明らかにしたい。

3. 分析に用いるデータ

分析に用いるデータは、(独)経済産業研究所「With コロナ・AI時代における新たな働き方に関するインターネット調査」である。本調査は、楽天インサイト株式会社に登録されるアンケートモニターを対象に、2021年11月17日から25日にかけて実施されたインターネット調査である。調査は、在宅勤務、独立自営、副業、失業といったトピックスについて、コロナ前後における変化を幅広くたずねている。

調査の対象は全国25歳から64歳の男女であり、雇用者・独立自営業者、失業者に対して性別×年齢×日本の8地域、学歴の割合が2020年の労働力調査の全国の詳細集計の値と

⁴ 一方で、副業の保有によって新型コロナウイルスが拡大したことを指摘する研究もある。Baughman, Stanley and Smith (2020)は、看護師や介護従事者などのケアワーカーにおいて副業をしている割合が高いことが、介護施設などにおいて新型コロナウイルスの拡大が進んだことを示している。

合うように割り付けを行い、回収をしている。配信数 89,955 に対して回収数は 12,195 であり、回収率は 13.6%であった。このなかで有効回答数は 9,000 であり、その内訳は正社員 40.0%、非正社員 26.6%、独立自営業主 25.0%、失業者は 8.3%である。

調査では、副業の保有の有無について、「2021 年 10 月（10 月 1 日から 31 日）に、あなたは、前問で回答した主な仕事のほかに、兼業・副業をしていましたか。あてはまるものをお選びください。ただし、ウェブアンケート調査のモニターのお仕事は、兼業・副業に含めないでください⁵」という設問に対して副業を持っているかどうかを回答する形式で訊ねている。

また、その後の設問では、副業を持っていない個人に対して、副業を持ちたいと考えるかどうかを訊ねている。その回答をまとめると、正社員、非正社員、独立自営業者内の副業率（就業状況各グループの総数に占める副業保有者の割合）は正社員が 8.9%、非正社員が 10.3%、独立自営業者が 11.5%であった。他方、副業希望率（各グループの総数に占める、副業を持っていないが副業を持つことを希望する割合）は正社員が 44.3%、非正社員が 38.6%、独立自営業者が 37.2%であった。

正社員よりも非正社員・独立自営業者の方が副業率は高いが、副業を希望する割合は正社員で最も多く、副業に対する（実現はできていない）ニーズが正社員で高いことが示される。なお、副業の希望に対する設問で本業の勤め先において副業が「禁止されているかどうかにかかわらず」と言及されている点は留意する必要がある。

ここまでみたように、コロナ禍において副業に対するニーズは高まり、副業を持つ割合も上昇している傾向がある。その点を踏まえて、本調査は、副業希望者・保有者に対して新型コロナウイルスが副業保有のきっかけとなったかを訊ねている。

その集計をまとめた図表 2 をみると、調査が行われた 2021 年 10 月時点において本業が雇用者である副業保有者のうち、42.8%がコロナ関連を理由として副業を持ったと回答していることがわかる。

コロナきっかけ理由の中で最も割合の高い理由は、副業保有者において収入減であり、副業保有者全体の 28.9%、コロナきっかけ理由の中では 7 割近く（67.5%（=28.9%/42.8%））も占める。また、本人の収入減のみならず、家族の収入減がきっかけとなり副業を持つ傾向もみられる（副業保有者の 7.0%）。

その他のコロナ関連の理由としては、休業、労働時間短縮をきっかけとして副業をもつ傾向もみられる（それぞれ副業保有者の 5.5%、8.6%）。一方、コロナきっかけの副業はそのネガティブなショックへの対応ばかりではない。リモートワークを始めたことによる副業も、休業と同水準確認される（副業保有者の 5.6%）。リモートワークによる副業は、リモートワークで本業の勤め先への通勤時間が短縮されたことや、リモートワークで従事できる

⁵ 楽天インサイトのウェブモニターは、調査へ回答をすることで報酬を得る。そのため、モニターに登録していること自体が副業をしていることを示すため、ここではウェブモニターとしての活動以外の副業を分析の対象とした。

副業が選択できるようになったことが大きいと考えられる。

ここで、コロナきっかけの副業理由を評価する際に注意すべき点は、本調査における、コロナ禍をきっかけとして副業を持つことを訊ねる設問は、複数回答であることである。例えば、収入減と答えた人も他の理由も挙げている場合があるわけで重複状況を把握することが重要である。重複をまとめた図表 3 によると、重複回答者の割合は多くないことが分かる。回答者の割合をみると、回答者の収入減(24.6%)、その他(9.9%)、家族の収入減(6.9%)、労働時間短縮(6.3%)、リモートワーク(5.8%)といった単独のきっかけの回答が上位を占め、それらだけで全体の 8 割を占めている。収入減ではなく労働時間短縮やリモートワークの単独回答者の割合がそれなりのウェイトを占めていることは注目すべき点である。ただし、休業をきっかけとする副業は、収入減を伴うケースとほぼ同数であり、休業をしている労働者においては、収入減をとまなうケースが多い。

図表 4 は、コロナ禍をきっかけに副業を必要とした個人属性および本業の属性をみるために行ったプロビット分析の推定結果である。まず、収入の減少による副業のニーズ（保有又は希望）は、契約社員や派遣労働者である、年収が低い、男性の場合、高い。また、コロナ禍の影響を直接的にうけた宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、サービス業で収入減少によるニーズが高まっている。他方、家族による収入減の補填として副業を必要とするケースについては、男性ダミーが有意に負でないことから、田中・坂口（2017）で指摘されている妻が家計の補助をし、男性の収入減を補填するために副業をするという傾向はみられない。休業・労働時間短縮による副業のニーズは、若年の雇用者で高いが、雇用形態や職種・業種といった本業の属性については、医療・福祉で休業による副業へのニーズが低いこと以外は、本業の属性による差異は確認されなかった。

リモートワークによる副業へのニーズは、情報通信業の業種で高く契約社員、パート・アルバイトにおいて有意に負であるため、正社員で相対的に高いといえる。他方、リモートワークの利用可能性が低いと考えられる業種（建設業、卸売・小売業、宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉）、職種（サービス職、運輸・通信関連業、生産工程・労務職）で低い傾向がみられた。また、労働時間の短さの限界効果も負の値で有意であるが、これは、リモートワークの利用によって労働時間が短縮された可能性があるため、必ずしも短時間労働者でリモートワークが利用されていることを意味しない点は、注意をする必要がある。

4. コロナきっかけの副業がウェルビーイングに与えた影響

コロナをきっかけに副業を持つことは、果たして望ましい選択であったといえるのだろうか。その判断の 1 つとして、副業の希望者・保有者でウェルビーイングに関する指標に差異が生じるかどうかを、図表 2 でみたコロナきっかけの理由別にみたい。なお、「With コロナ・AI 時代における新たな働き方に関するインターネット調査」において、ウェルビーイングに係る指標は、幸福度、生活満足度が 11 段階、本業の仕事満足度が 5 段階、それに

加えてメンタルヘルスに関する K-10 スコア（範囲は 10-50）を採用する⁶。なお、K-10 スコアは値が大きいほど精神面の健康状態がよいことを表すように、値を反転させている。雇用者を対象に 4 つのウェルビーイング指標（幸福度、生活満足度、本業の仕事満足度、メンタルヘルス）まとめた結果は、図表 5 にまとめている。

副業非希望者を基準にし（点線部分）、図表 5 の右端をみると、コロナきっかけの副業希望・保有者のウェルビーイングはコロナきっかけでない副業希望・保有者よりも低いことが分かる。また、コロナきっかけでない副業においては、副業希望者より副業保有者の方が高くなっているが、本業の仕事満足度以外では、コロナきっかけの副業はウェルビーイング指標をむしろ下げている。

しかし、コロナきっかけの理由を更に個別にみると、リモートワーク、その他の理由では、副業希望・保有者のウェルビーイングの方が副業非保有者のよりも高くなる、また、副業保有者の方が希望者よりも高くなるケースがみられた（特に、幸福度、生活満足度）。一方、それら以外のコロナきっかけの理由においては、コロナきっかけ理由の全体の動きと同様、ほとんどのケースでウェルビーイングが副業非保有者よりも低くかつ希望より保有の方が更に低いという逆の状況がみられた。特に、労働時間短縮と休業については、すべてのウェルビーイング指標で副業保有者が副業希望者よりも低くなり、また、他の理由と比べても副業保有者のウェルビーイングの水準が低い傾向にある。

まず、リモートワーク理由の副業者のウェルビーイングが高くなることは、テレワーク実施者の方が各種ウェルビーイングは高いという当調査を利用した分析（鶴・久米・川上（2022））や「全国就業実態パネル調査」を用いて、テレワークの制度適用されている場合のテレワークがウェルビーイングを高めるという千野（2020）の分析結果と整合的であるといえる。ただし、メンタルヘルスについては、リモートワーク理由の場合も副業保有が希望よりも低くなっていることには留意が必要である。

リモートワーク理由以外のコロナきっかけ理由の副業はいずれにせよコロナでなんらかの負のショックを受けて副業を持たざるを得ない環境にあるため、副業非保有者よりもウェルビーイングが低くなることは十分考えられる。このため、そうした状況を副業保有で改善できればウェルビーイングは高まるはずである。例えば、副業のニーズにおいて労働時間

⁶ 幸福度は「全体として、あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか」、生活満足度は「あなたは、あなたの生活全般についてどの程度満足していますか」という設問に対する 11 段階の回答を用いる。本業の仕事満足度は「満足している」「やや満足している」「どちらともいえない」「少し不満である」「不満である」の 5 段階の回答を 1-5 点のスコアとする。K-10 は「理由もなく疲れ切ったように感じましたか」「神経過敏に感じましたか」「どうしても落ち着けないくらいに、神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」「じっと座ってられないほど、落ち着かなく感じましたか」「ゆううつに感じましたか」「気分が沈み込んで、何が起ころても気が晴れないように感じましたか」「何をするのも骨折りだと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」に対する 5 段階の回答「全くない」「少しだけ」「ときどき」「たいてい」「いつも」を 1-5 点のスコアとして合計値を用いる。また、K-10 については、値が大きいほど精神面の健康状態がよいことを表すように、値を反転させて用いる。

制約に着目した、Perlman (1966)のモデルでも、労働時間制約下における副業の保有は、非制約の状態にある労働者よりも効用の水準が下がるが、副業を持つことで効用が高めることが想定されている。これは、本業の労働時間と副業の労働時間が完全に代替的な関係でない、例えば、複数の仕事を持つことによる労働時間以外の負担や本業の仕事を十分にできないというフラストレーションがウェルビーイングの低下に影響している可能性が指摘できるかもしれない。

追加的に、目的変数であるウェルビーイング指標を決定する要因として、年齢対数値、性別ダミー、雇用形態、業種、職業、所得（本業・副業合計）対数値、労働時間（本業・副業合計）対数値をコントロールした上で、コロナ禍をきっかけとする副業の保有が持つ影響を順序プロビット分析で推定を行った。推定にあたっては、副業希望者および保有者については、コロナきっかけ以外で副業を持つ雇用者と、コロナきっかけの理由別（本人の収入減や休業など）で副業を希望・保有するサンプルに限定をして推定を行っている。また、本業の雇用形態について、正社員と非正社員に分けて分析を行なう。その推定結果は、図表 6-1、6-2 の通りである。

コロナ禍の収入減が理由で副業を希望する者は、正社員と非正社員ともにコロナきっかけ以外の理由で副業を希望・保有する者よりも各ウェルビーイング指標は低い。労働時間の減少に関する休業や本業の労働時間が短縮されたことによる副業保有は、副業を希望する段階ではコロナ禍以外の副業希望との間でウェルビーイング指標に差異がみられないが、正社員については、休業がきっかけによる副業は生活満足度とメンタルヘルス、労働時間短縮きっかけでは幸福度において副業保有が希望よりも低くなっている。ただし、休業がメンタルヘルスに与える影響と労働時間短縮が幸福度に与える影響については、有意水準が10%基準である場合に効果があると判断されている。

また、リモートワークについては、正社員では、副業非希望者よりも副業希望者の方が幸福度、生活満足度は有意に高いが、メンタルヘルスは有意に低く、図表 5 と同様の結果になっている。一方、非正社員については、上記のような差異はみられないが、リモートワークの副業保有は副業希望より幸福度、生活満足度が高くなっており、図表 5 の結果とも整合的であり、これは主に非正社員の影響を受けているといえる。

5. コロナきっかけ理由の副業で何が志向されているのか

「With コロナ・AI 時代における新たな働き方に関するインターネット調査」では、副業を持つきっかけとしてのコロナ禍の他に、なぜ副業を持つのかという動機についても訊かれている。この設問は副業を希望・保有する理由に関する 15 項目で構成されており⁷、鶴・

⁷ 「収入を得るため」「転職したいから」「独立したいから」「趣味の延長として」「新しい知識や経験を得るため」「自分が活躍できる場を広げたいから」「様々な分野の人とつながりができるから」「現在の仕事で培った能力を活用するため」「時間のゆとりがあるから」「副業のほうが本当に好きな仕事だから」「本業の仕事の性格上、別の仕事をもつことが自然だから（大学教員、研究者など）」「仕事を頼まれ、断りきれなかったから」「家業を手伝うため」「本業に役に立

川上・久米(2022)において、他の理由を含まず「収入を得るため」のみを目的とする「収入目的」、副業を通じて、知識や経験・人的ネットワークを得ることを求める「スキル獲得目的」、本業の仕事を変える準備に副業を持つ「転職・独立目的」、余暇の活用として副業をする「趣味・余暇目的」、そして、本業の仕事を通じて得られるネットワークによる仕事依頼や家業の手伝いなどの外的要因による「人間関係・家族関係理由」の5つの目的・理由にタイプ分けを行っている⁸。なお、これら5つの目的・目標は「収入目的」を除いて他の目的と重複するケースを除いていない⁹。副業の目的・目標の違いは、そのウェルビーイングに関する指標や本業の役に立つスキルが得られるかにも影響を与えるという研究成果も得られている(川上, 2021; 鶴・川上・久米, 2022)。

これまで検討してきたコロナきっかけの各理由と上記の5つの目的・目標は収入関連については重なるものの、以下のように分けて考えることができる。コロナきっかけの各理由は異なる外的ショックを示しているとみられるが個人がコントロールしづらい要因と考えられる。

一方、上記の5つの目的・目標は、副業を通じて将来に向けて何を志向し、実現したいかに重きを置いていると考える。言い換えれば、コロナきっかけの理由は副業希望・保有者の視点に立てば、バックワード・ルッキングな視点であり、上記5つの目的はフォワード・ルッキングな視点といえる。例えば、リモートワークの利用で副業の可能性が広がった場合、そこから趣味を活かすことを目指す副業を行うか、自己啓発的にスキルを高めることを志向する副業を行うかには違いがあるといえる。その点を踏まえ、ここまでみてきたコロナ禍を契機とする副業が将来に向けて何を志向、目指し、実現したいかを、シンプルなプロビット分析から推定を行った。その推定結果は、図表7にまとめている。上記5つの目的・目標の副業を収入獲得志向型副業、スキル獲得志向型副業、転職・独立志向型副業、趣味・余暇活用志向型副業、人間関係・家族関係重視志向型副業と呼び、被説明変数とするとともに、コントロール変数には、性別、年齢対数値、本業の雇用形態・業種・職業、本業の所得対数値と労働時間帯数値を加えており、本業の正社員と非正社員に分けて推定を行なっている。

まず、コロナ禍による収入の減少は、収入獲得志向型副業を行う傾向を高める。同時に、転職・独立志向型副業を行う傾向がみられる。コロナ禍で本業の待遇が悪化するなかで、本

つから」「その他」の15項目である。

⁸ 「収入目的」は、他の理由を含まず「収入を得るため」のみを目的とする場合、「新しい知識や経験を得るため」「自分が活躍できる場を広げたいから」「様々な分野の人とつながりができるから」「現在の仕事で培った能力を活用するため」のいずれかを含んでいる場合は「スキル獲得目的」、「転職したいから」「独立したいから」のいずれかを含む場合は「転職・独立目的」、「趣味の延長として」「時間のゆとりがあるから」「副業のほうが本当に好きな仕事だから」のいずれかを含む場合は「趣味・余暇目的」、そして、「本業の仕事の性格上、別の仕事をもつことが自然だから(大学教員、研究者など)」「家業を手伝うため」による「人間関係・家族関係理由」と分類している。

⁹ 副業の保有においても収入のみを目的とするものは多い(川上 2017)。一方で、スキル形成や趣味・余暇の目的とするケースにおいても収入を得ることも目的に含まれることが多いことから、本論文においては収入については、それのみを目的とするものとして区分する。

業で減少する収入の補填と転職・独立のために副業が持たれていた傾向がみられる。

正社員においては、休業、労働時間短縮、離職、リモートワークをきっかけにした副業は、収入獲得志向型副業との性格はより弱く、スキル獲得志向型副業の傾向が強いことが確認される。本業における労働時間が短縮されたなかで、将来のキャリアにむけたスキルの向上を、副業を通じて得ようと考えていることがわかる。また、労働時間の短縮や離職がきっかけとして副業をしている場合は、転職・独立志向型副業、趣味・余暇活用志向型副業の傾向が強いことも観察された。

一方、非正社員については、コロナきっかけの収入減の副業は収入獲得志向型副業、転職・独立志向型副業の傾向が強く¹⁰、正社員とほぼ同様の結果となっている。一方、スキル獲得志向型副業、趣味・余暇活用志向型副業の傾向は弱いことがより明確に出ている。また、正社員と同様、労働時間短縮をきっかけとした副業はスキル獲得志向型副業の傾向が強い。

6. 分析結果のまとめと課題

本論文は、独自に実施されたインターネット調査を用いて、新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけとして保有された副業がウェルビーイングに与えた影響と、それらの副業がどのような目的で持たれていたかを明らかにした。

コロナ下の副業保有の4割はコロナきっかけによる理由であり、その中で7割ほどは所得減を理由にしている。一方で、副業を希望・保有する理由により本人のウェルビーイングに差異があることがわかった。コロナきっかけ理由による副業希望・保有者のウェルビーイングは副業非希望者やコロナきっかけ以外の理由の副業希望・保有者よりも総じて低い。また、コロナきっかけ以外の理由の場合においては、副業保有者の方が副業希望者よりもウェルビーイングが高いが、コロナきっかけ理由の場合では、逆に総じて副業保有者の方が低くなっていた。

ただし、コロナによるきっかけであっても、その内容によって差異が存在する。リモートワーク理由の副業希望・保有者のウェルビーイングの状況は、コロナきっかけ以外の理由の副業希望・保有者と似た傾向がある。一方で、労働時間短縮や休業といった理由の副業は特に副業保有者のウェルビーイングが低くなっていた。リモートワーク以外のコロナきっかけ理由の副業希望・理由は自らの自発的な意思ではなく、厳しい経済状況の中、追い込まれた副業希望・保有であるので、そもそもそのニーズがあること自体、ウェルビーイングは低くならざるを得ないし、副業ができたとしてもそれが本意ではないことで様々な負担が生じることが予想され、ウェルビーイングは必ずしも高まらないと考えられる。このように副業の従事者への影響を考える場合、「追い込まれ型副業」か「自発的本意型副業」であるかを見極める必要がある。

¹⁰ ただし、転職・独立志向型は10%有意水準でやや弱い。

しかしながら、特に、正社員において、「追い込まれ型副業」のマイナス面が強く出ている休業、労働時間短縮理由の副業はその一方で、スキル獲得志向型副業の傾向が強く、今のウェルビーイングは低くても将来、スキルが獲得できればウェルビーイングも高まることが期待されるという意味で、未来志向的な副業として評価できるかもしれない。

参考文献

- Amuedo-Dorantes, Catalina, and Jean Kimmel (2009) "Moonlighting over the Business Cycle." *Economic Inquiry* 47(4):754–65. doi: 10.1111/j.1465-7295.2008.00140.x.
- Asravor, Richard K (2021) "Moonlighting to Survive in a Pandemic: Multiple Motives and Gender Differences in Ghana." *International Journal of Development Issues* 20(2):243–57. doi: 10.1108/IJDI-08-2020-0180.
- Casacuberta, Carlos, and Néstor Gandelman (2012) "Multiple Job Holding: The Artist's Labour Supply Approach." *Applied Economics* 44(3):323–37.
- Conway, Karen S., and Jean Kimmel (1998) "Moonlighting Behavior: Theory and Evidence." *Labour Economics*, 5: 135–66. doi: 10.17848/wp92-09.
- Heineck, Guido, Guido Heineck, and Johannes Schwarze (2004) "Fly Me to the Moon : The Determinants of Secondary Jobholding in Germany and the UK". IZA Discussion Paper Series, 1358.
- Khera, Diksha, and Tarun Kumar (2023) "Modelling of Moonlighting Intention and Its Motives with Moderation of Covid-19." *European Economic Letters* 13(3):1580–93. doi: 10.52783/eel.v13i3.464.
- Panos, Georgios A., Konstantinos Pouliakas, and Alexandros Zangelidis (2014) "Multiple Job Holding, Skill Diversification, and Mobility." *Industrial Relations* 53(2):223–72.
- Perlman, Richard (1966) "Observations on Overtime and Moonlighting." *Southern Economic Journal* 33(2):237–44.
- Renna, Francesco (2006) "Moonlighting and Overtime: A Cross-Country Analysis." *Journal of Labor Research* 27(4):575–91.
- Shishko, Robert, and Bernard Rostker (1976) "The Economics of Multiple Job Holding." *American Economic Review* 66(3):298–308.
- Wright, Robert E., Juan J. Dolado, and Robert A. Hart (1997) "Multiple Job Holding as a "Hedge" Against Unemployment." IZA Discussion Paper, 1626.
- 宇南山卓 (2011) 「家計調査の課題と改善に向けて」『統計と日本経済』1(1):3–28.
- 川上淳之 (2017) 「誰が副業を持っているのか？ —インターネット調査を用いた副業保有の

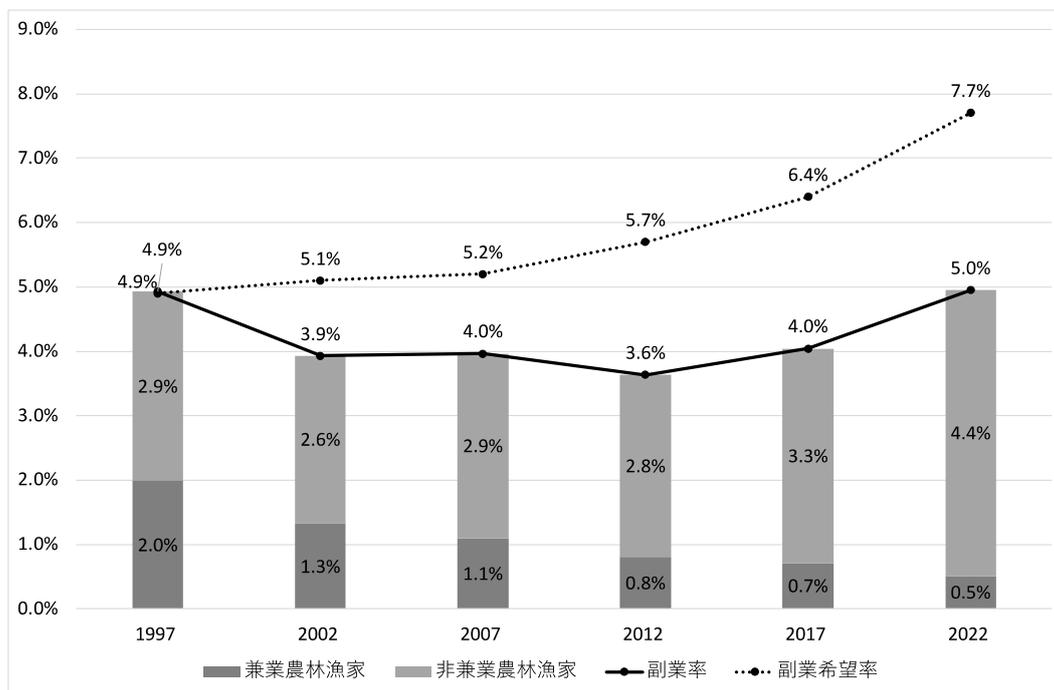
実証分析」『日本労働研究雑誌』680:102-19.

川上淳之 (2021) 『「副業」の研究—多様性がもたらす影響と可能性』慶應義塾大学出版会.

田中慶子・坂口尚文 (2017) 「共働き夫婦の家計運営」『日本労働研究雑誌』689:28-39.

鶴光太郎・川上淳之・久米功一 (2022) 「新型コロナウイルス感染拡大下での在宅勤務、独立
自営、副業、失業の実態について：RIETI「Withコロナ・AI時代における新たな働き方
に関するインターネット調査」から」RIETI Discussion Paper Series, 22-P-014.

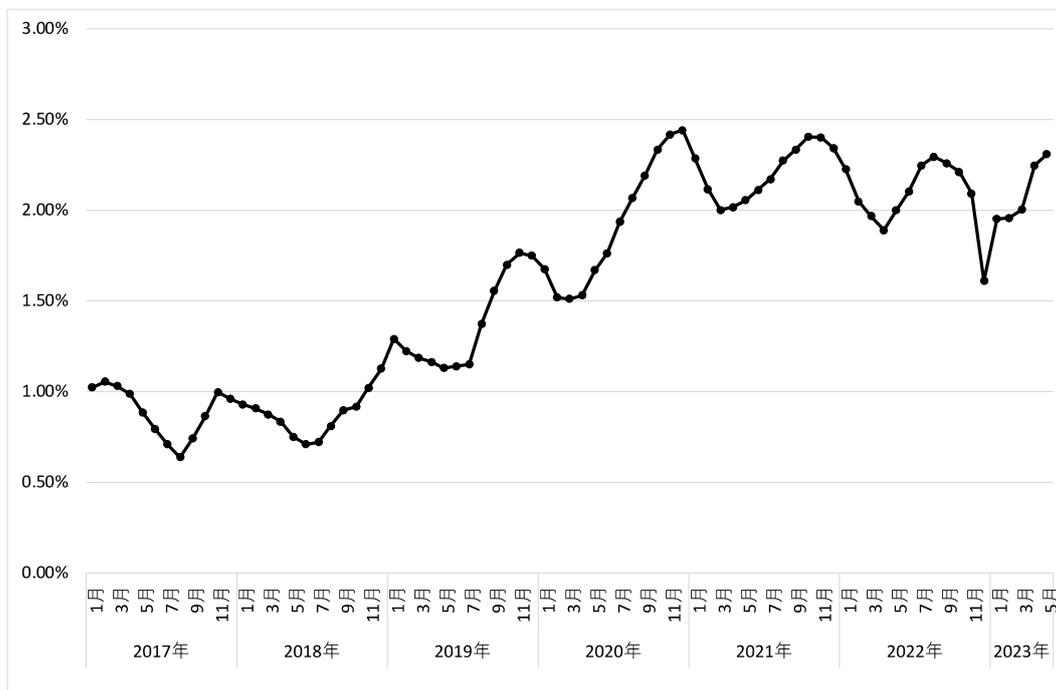
図表1-1. 副業率・副業希望率の推移



出所) 総務省「就業構造基本調査」

注) 副業率は有業者に占める副業を持つものの割合。副業希望率は有業者に占める追加就業希望者の割合である。兼業農林漁家は、本業もしくは副業が農林漁業である有業者とする。

図表 1-2. 二人以上世帯の世帯主の副業率



出所) 総務省「家計調査(二人以上世帯)」

注) 二人以上勤労者世帯の世帯主が本業の仕事以外に副業を持っているか、もしくは事業を営んでいるかを副業率として集計している。勤労者世帯とは、世帯主が会社・官公庁・学校・工場・商店などに勤めている世帯であり、世帯主が社長や取締役などである場合は除かれる。

図表2. コロナきっかけによる副業希望・保有の割合

		正社員+非正社員	独立自営
収入減	副業希望	35.0%	44.9%
	副業保有	28.9%	33.0%
家族収入減	副業希望	11.9%	11.2%
	副業保有	7.0%	7.3%
休業	副業希望	4.8%	6.9%
	副業保有	5.5%	7.3%
労働時間短縮	副業希望	11.1%	8.9%
	副業保有	8.6%	5.7%
離職	副業希望	2.1%	1.2%
	副業保有	2.1%	1.9%
リモートワーク	副業希望	7.6%	4.6%
	副業保有	5.6%	3.8%
その他	副業希望	12.1%	6.0%
	副業保有	2.3%	1.5%
新型コロナ関連理由計	副業希望	72.3%	65.9%
	副業保有	42.8%	43.3%
新型コロナ関連理由以外	副業希望	27.7%	34.1%
	副業保有	57.2%	56.7%

出所) 経済産業研究所「With コロナ・AI時代における新たな働き方に関するインターネット調査」

図表3. 本業雇用者における新型コロナウイルスきっかけによる副業の重複

	度数	コロナの影響なしを含む		コロナの影響なしを除く	
		相対度数 (%)	累積相対度数 (%)	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
影響なし	1022	33.10	33.10		
収入	760	24.61	57.71	36.79	36.79
その他	307	9.94	67.65	14.86	51.65
家族	212	6.87	74.52	10.26	61.91
時短	194	6.28	80.80	9.39	71.30
リモート	178	5.76	86.56	8.62	79.91
収入・家族	82	2.66	89.22	3.97	83.88
収入・時短	72	2.33	91.55	3.48	87.37
休業	56	1.81	93.36	2.71	90.08
収入休業	47	1.52	94.88	2.27	92.35
離職	36	1.17	96.05	1.74	94.09
収入・リモート	13	0.42	96.47	0.63	94.72
収入離職	11	0.36	96.83	0.53	95.26
収入休業・時短	10	0.32	97.15	0.48	95.74
収入・家族時短	10	0.32	97.47	0.48	96.22
時短リモート	7	0.23	97.70	0.34	96.56
収入・家族・休業	7	0.23	97.93	0.34	96.90
収入・家族・休業・時短	6	0.19	98.12	0.29	97.19
休業・時短	5	0.16	98.28	0.24	97.43
家族時短	5	0.16	98.44	0.24	97.68
収入その他	5	0.16	98.60	0.24	97.92
家族・休業	4	0.13	98.73	0.19	98.11
収入・時短リモート	4	0.13	98.86	0.19	98.31
時短・離職	3	0.10	98.96	0.15	98.45
休業・リモート	3	0.10	99.06	0.15	98.60
収入休業・リモート	3	0.10	99.16	0.15	98.74
収入・家族・休業・時短・離職	3	0.10	99.26	0.15	98.89
時短・離職・リモート	2	0.06	99.32	0.10	98.98
休業・時短リモート	2	0.06	99.38	0.10	99.08
家族・その他	2	0.06	99.44	0.10	99.18
収入・リモート・その他	2	0.06	99.50	0.10	99.27
収入・家族・離職	2	0.06	99.56	0.10	99.37
収入・家族・休業離職	2	0.06	99.62	0.10	99.47
リモート・その他	1	0.03	99.65	0.05	99.52
時短・その他	1	0.03	99.68	0.05	99.56
休業離職	1	0.03	99.71	0.05	99.61
家族リモート	1	0.03	99.74	0.05	99.66
家族時短・離職・リモート	1	0.03	99.77	0.05	99.71
収入・時短・離職	1	0.03	99.80	0.05	99.76
収入休業離職	1	0.03	99.83	0.05	99.81
収入休業離職・リモート	1	0.03	99.86	0.05	99.85
収入休業・時短リモート	1	0.03	99.89	0.05	99.90
収入・家族時短リモート	1	0.03	99.92	0.05	99.95
収入・家族・休業・リモート	1	0.03	99.95	0.05	100.00

出所) 経済産業研究所「With コロナ・AI時代における新たな働き方に関するインターネット調査」
注) 本業が雇用者であるサンプルを対象に集計。

図表 4. 個人属性・本業の属性がコロナ禍による雇用者の副業希望・保有に与えた影響

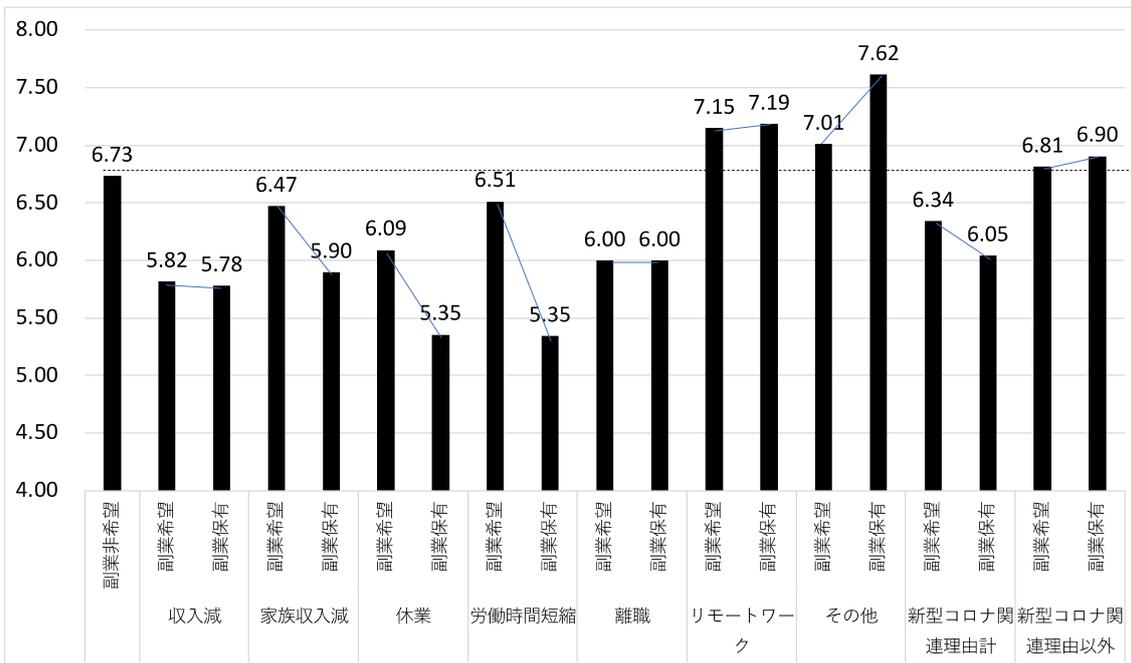
被説明変数：理由別副業ニーズ（保有または希望）

	収入減理由		収入減（家族）理由		休業理由		労働時間短縮理由		離職理由		リモートワーク理由	
	限界効果/z値		限界効果/z値		限界効果/z値		限界効果/z値		限界効果/z値		限界効果/z値	
	限界効果	z値	限界効果	z値	限界効果	z値	限界効果	z値	限界効果	z値	限界効果	z値
男性ダミー	0.046 **	-0.010	0.004	0.029 **	0.013 **	-0.003						
年齢対数値	2.47	-0.80	0.42	2.27	2.40	-2.27						
年取対数値	-0.042	-0.006	-0.040 **	-0.052 **	0.002	0.003						
労働時間対数値	-1.22	-0.26	-2.53	-2.29	0.17	0.18						
	-0.022 **	0.005	-0.007 *	0.009	0.000	0.009 *						
	-2.50	0.87	-1.75	1.36	-0.07	1.66						
	-0.018	-0.014	-0.010 *	-0.008	-0.006	-0.016 **						
	-1.34	-1.63	-1.72	-0.88	-1.61	-2.27						
本業雇用形態[正社員]												
契約社員、嘱託社員	0.085 ***	-0.021	-0.011	-0.007	-0.007	-0.030 **						
	2.90	-1.17	-0.81	-0.40	-0.88	-2.10						
派遣労働者	0.068 *	-0.072 ***	0.003	0.004	0.023	0.030						
	1.68	-4.00	0.17	0.17	1.33	1.18						
アルバイト・パート	0.002	0.003	-0.016	0.003	-0.012 *	-0.058 ***						
	0.09	0.18	-1.58	0.18	-1.76	-5.67						
本業業種[製造業]												
農業、林業	-0.260 ***	-0.062		0.006								
	-3.56	-0.92		0.08								
建設業	-0.067	0.026	-0.030 *	0.007	-0.024 *	-0.043 **						
	-1.63	0.86	-1.76	0.27	-1.80	-2.07						
電気・ガス・熱供給・水道業	0.065	-0.026	-0.033	-0.009	0.000	-0.065 **						
	0.86	-0.57	-1.21	-0.19		-2.37						
情報通信業	-0.068	-0.051 **	0.009	0.021	-0.017	0.085 ***						
	-1.62	-1.99	0.39	0.69	-1.24	2.72						
運輸業、郵便業	0.137 **	-0.011	-0.031	0.014	-0.035 ***	-0.017						
	2.41	-0.32	-1.52	0.37	-3.08	-0.53						
卸売業、小売業	-0.011	0.003	-0.010	-0.004	-0.008	-0.045 **						
	-0.30	0.13	-0.55	-0.18	-0.55	-2.37						
金融業、保険業	0.044	-0.047 *	0.017	0.006	-0.010	0.017						
	0.90	-1.76	0.63	0.17	-0.56	0.57						
不動産業、物品賃貸業	-0.065	0.025	-0.040 *	-0.042		-0.071 ***						
	-1.05	0.52	-1.91	-1.23		-2.86						
学術研究、専門・技術サービス業	-0.087	0.032	-0.006	0.013		0.034						
	-1.47	0.68	-0.20	0.28		0.79						
宿泊業、飲食サービス業	0.147 ***	0.027	0.053 *	0.030	-0.021	-0.086 ***						
	2.73	0.73	1.68	0.80	-1.31	-4.57						
生活関連サービス業、娯楽業	0.144 **	0.010	0.022	0.021	-0.027 *	-0.013						
	2.49	0.25	0.73	0.54	-1.88	-0.38						
教育、学習支援業	-0.048	-0.035	-0.012	0.035	-0.025 *	-0.028						
	-0.93	-1.08	-0.49	0.89	-1.66	-0.96						
医療、福祉	-0.070 **	-0.009	-0.029 **	-0.025	-0.012	-0.083 ***						
	-2.06	-0.37	-2.06	-1.17	-0.85	-5.41						
複合サービス事業	0.080	0.098	-0.003	0.000	0.012	-0.039						
	0.61	0.89	-0.05		0.24	-0.66						
サービス業（他に分類されないもの）	0.032	0.001	-0.022	-0.002	-0.018	-0.025						
	0.82	0.04	-1.30	-0.09	-1.34	-1.08						
公務（他に分類されるものを除く）	-0.084	0.067		-0.042		0.013						
	-1.07	0.96		-0.91		0.22						
その他	-0.102 **	-0.033	0.042	-0.035	0.001	0.005						
	-1.98	-0.96	1.25	-1.06	0.06	0.13						
本業の職業[事務・営業・販売職]												
サービス職	0.059 **	-0.010	0.025 *	-0.001	0.008	-0.032 **						
	2.16	-0.52	1.86	-0.05	0.90	-1.98						
保安・警備職	-0.047	0.067	0.043	0.041	0.018							
	-0.60	0.94	0.77	0.62	0.51							
農林漁業関連職	0.605 ***	0.117		0.053								
	7.40	0.56		0.41								
運輸・通信関連職	-0.082	-0.051 *	0.003	-0.005	0.037	-0.050 **						
	-1.62	-1.72	0.12	-0.13	0.94	-2.07						
生産工程・労務職	0.054	0.013	-0.004	0.009	-0.012	-0.069 ***						
	1.42	0.49	-0.25	0.35	-1.57	-4.84						
管理職	-0.096 **	-0.037	-0.003	-0.036	0.006	-0.011						
	-2.41	-1.38	-0.16	-1.47	0.48	-0.46						
専門職・技術職	-0.011	-0.023	0.006	-0.018	-0.001	-0.012						
	-0.39	-1.27	0.52	-1.04	-0.13	-0.72						
分類不能の職業	0.024	-0.022	-0.014	-0.010	0.027	-0.043 *						
	0.53	-0.77	-0.89	-0.32	1.34	-1.85						
サンプルサイズ	3034	3034	2978	3019	2807	2980						
擬似決定係数	0.04	0.02	0.05	0.02	0.06	0.11						
対数尤度	-1853.10	-1028.80	-558.20	-1008.50	-274.00	-701.90						
Chi2値	155.60	42.16	56.60	31.03	38.76	146.10						

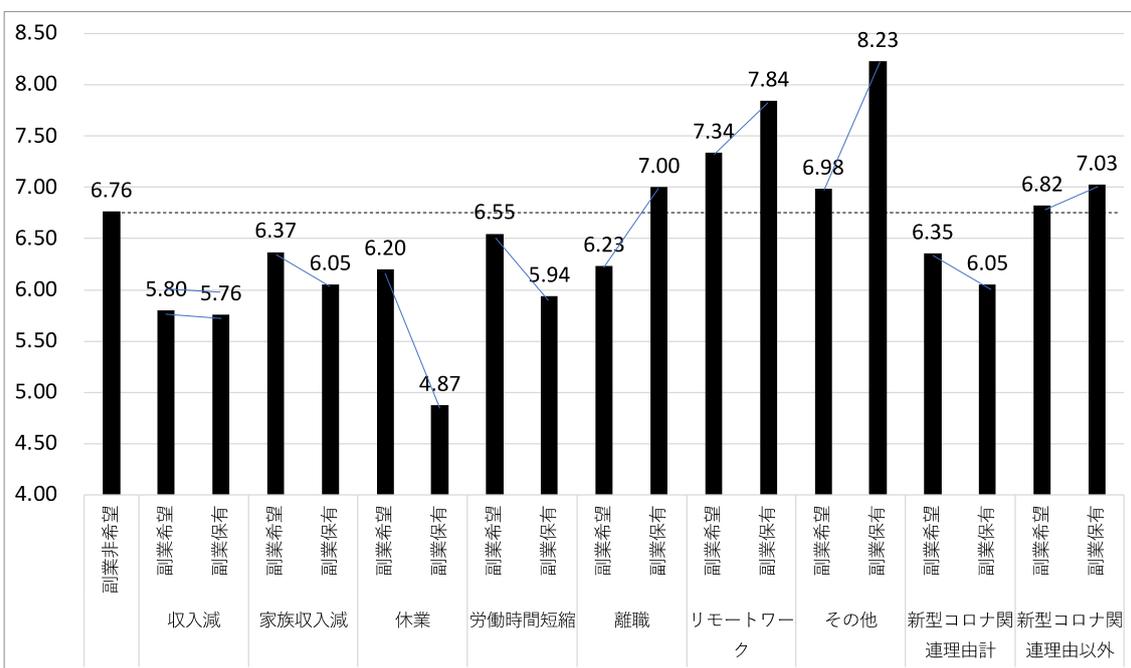
出所) 経済産業研究所「With コロナ・AI時代における新たな働き方に関するインターネット調査」

注) 本業が雇用者であるサンプルを対象にプロビット分析により推定。アスタリスク*、**、***はそれぞれ有意水準10%、5%、1%で各変数の係数が0であるという帰無仮説を棄却することを示す。

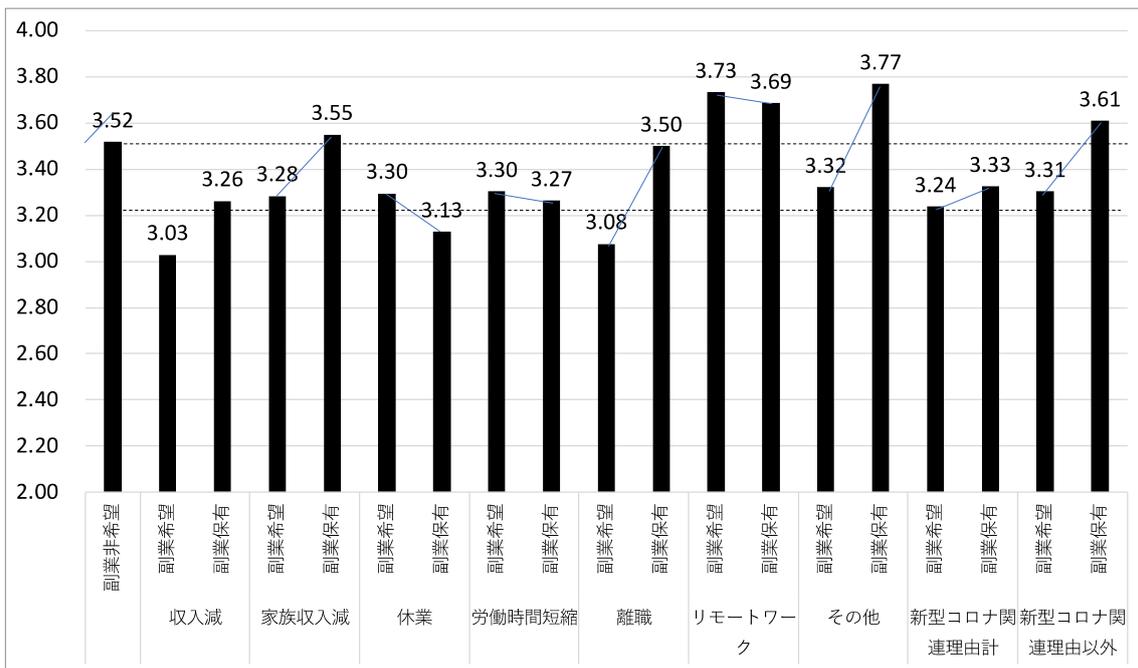
図表 5. コロナきっかけによる副業希望・保有が雇用者のウェルビーイングに与える影響



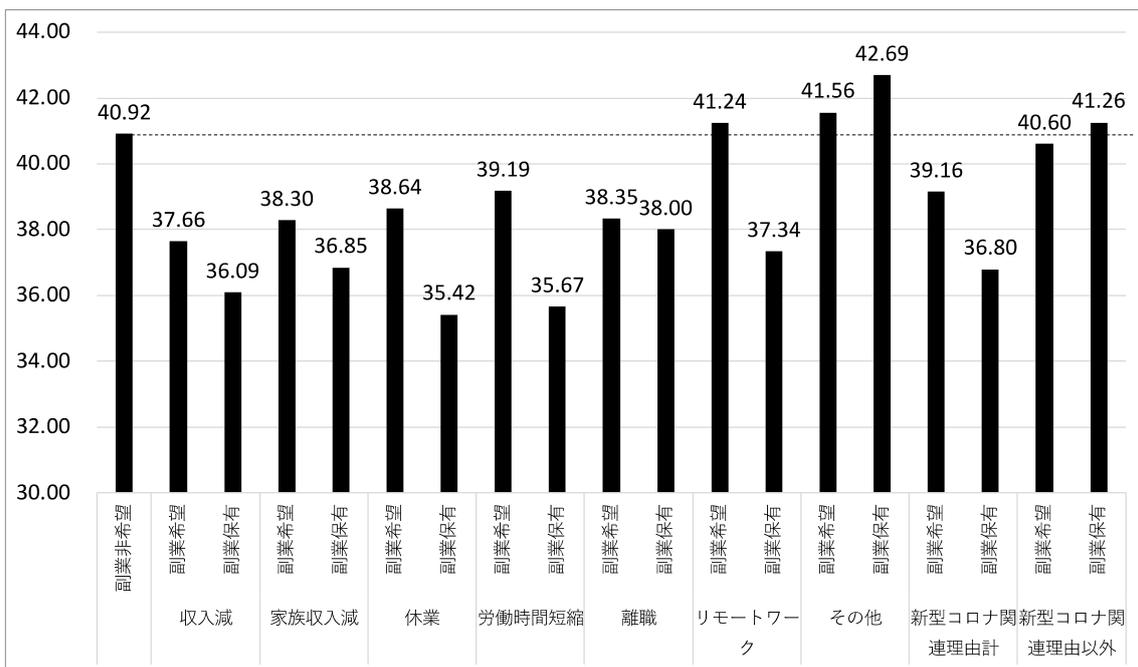
(a) 幸福度 (11段階)



(b) 生活満足度 (11段階)



(c) 本業仕事満足度 (5段階)



(d) メンタルヘルス (10-50)

出所) 経済産業研究所「With コロナ・AI時代における新たな働き方に関するインターネット調査」
 注) 本業が雇用者であるサンプルを対象に集計。

図表 6-1. コロナきっかけ副業とコロナ以外副業との間のウェルビーイング指標への影響の比較（正社員）

被説明変数：幸福度

	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値
副業保有状況[基準：副業希望（コロナきっかけ理由）]						
副業非希望	0.275 ***	-0.026	0.197	0.050	0.534 ***	-0.204 **
	5.02	-0.34	1.38	0.60	3.79	-2.16
副業希望（コロナきっかけ理由以外）	0.352 ***	0.071	0.294 **	0.154 *	0.636 ***	-0.104
	5.15	0.81	1.97	1.66	4.28	-1.02
副業保有（コロナきっかけ理由以外）	0.251 ***	-0.041	0.189	0.043	0.526 ***	-0.212 *
	2.60	-0.37	1.15	0.38	3.24	-1.72
副業保有（収入減理由）	-0.003					
	-0.02					
副業保有（家族収入減理由）		-0.494 **				
		-2.51				
副業保有（休業理由）			-0.421			
			-1.44			
副業保有（労働時間減理由）				-0.411 *		
				-1.94		
副業保有（離職理由）					0.376	
					0.89	
副業保有（リモートワーク理由）						-0.198
						-0.96
サンプルサイズ	2881	2524	2400	2508	2347	2474
疑似決定係数	0.013	0.013	0.014	0.015	0.014	0.014
対数尤度	-6077.7	-5280.0	-5030.5	-5245.5	-4899.1	-5182.6
Chi2値	174.7	144.3	134.3	163.1	146.8	143.9

被説明変数：生活満足度

	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値
副業保有状況[基準：副業希望（コロナきっかけ理由）]						
副業非希望	0.321 ***	0.052	0.188	0.027	0.313 **	-0.253 ***
	5.74	0.66	1.23	0.31	2.04	-2.75
副業希望（コロナきっかけ理由以外）	0.400 ***	0.140	0.283 *	0.125	0.414 ***	-0.156
	5.73	1.57	1.80	1.30	2.58	-1.54
副業保有（コロナきっかけ理由以外）	0.323 ***	0.056	0.207	0.046	0.333 *	-0.235 *
	3.30	0.50	1.20	0.39	1.91	-1.91
副業保有（収入減理由）	-0.080					
	-0.67					
副業保有（家族収入減理由）		-0.393 **				
		-1.96				
副業保有（休業理由）			-0.661 **			
			-2.39			
副業保有（労働時間減理由）				-0.334 *		
				-1.65		
副業保有（離職理由）					0.267	
					0.93	
副業保有（リモートワーク理由）						0.128
						0.59
サンプルサイズ	2881	2524	2400	2508	2347	2474
疑似決定係数	0.016	0.013	0.014	0.013	0.013	0.013
対数尤度	-5980.2	-5207.3	-4966.9	-5191.1	-4833.6	-5106.6
Chi2値	184.2	138.3	144.3	145.8	134.2	140.3

被説明変数：本業の仕事満足度

	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値
副業保有状況[基準：副業希望（コロナきっかけ理由）]						
副業非希望	0.434 ***	0.244 ***	0.219 *	0.159 *	0.540 ***	-0.117
	7.62	2.96	1.68	1.88	2.63	-1.32
副業希望（コロナきっかけ理由以外）	0.213 ***	0.023	-0.006	-0.072	0.315	-0.339 ***
	3.03	0.25	-0.05	-0.77	1.50	-3.45
副業保有（コロナきっかけ理由以外）	0.441 ***	0.256 **	0.231	0.162	0.547 **	-0.105
	4.29	2.15	1.49	1.34	2.46	-0.84
副業保有（収入減理由）	0.227 *					
	1.79					
副業保有（家族収入減理由）		0.038				
		0.18				
副業保有（休業理由）			-0.022			
			-0.07			
副業保有（労働時間減理由）				-0.099		
				-0.52		
副業保有（離職理由）					0.436	
					0.84	
副業保有（リモートワーク理由）						-0.082
						-0.35
サンプルサイズ	2881	2524	2400	2508	2347	2474
疑似決定係数	0.022	0.019	0.019	0.018	0.019	0.018
対数尤度	-4123.9	-3583.4	-3394.0	-3551.4	-3319.9	-3483.2
Chi2値	1418.2	136.2	128.3	1403.5	1433.4	1413.8

被説明変数：メンタルヘルス

	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値
副業保有状況[基準：副業希望（コロナきっかけ理由）]						
副業非希望	0.293 ***	0.286 ***	0.154	0.096	0.437 ***	-0.054
	5.35	3.86	1.11	1.19	3.34	-0.65
副業希望（コロナきっかけ理由以外）	0.313 ***	0.316 ***	0.187	0.130	0.475 ***	-0.019
	4.69	3.79	1.31	1.48	3.45	-0.21
副業保有（コロナきっかけ理由以外）	0.237 ***	0.231 **	0.106	0.044	0.385 ***	-0.104
	2.77	2.34	0.69	0.42	2.60	-0.97
副業保有（収入減理由）	-0.108					
	-0.99					
副業保有（家族収入減理由）		-0.418 *				
		-1.95				
副業保有（休業理由）			-0.462 *			
			-1.86			
副業保有（労働時間減理由）				-0.256		
				-1.35		
副業保有（離職理由）					0.130	
					0.35	
副業保有（リモートワーク理由）						-0.511 **
						-2.52
サンプルサイズ	2881	2524	2400	2508	2347	2474
疑似決定係数	0.0104	0.0102	0.00913	0.0092	0.00972	0.009
対数尤度	-9220.3	-7973.8	-7552.6	-7899	-7358.1	-7758.3
Chi2値	195.5	161.2	131.4	140.8	140.8	137.6

出所）経済産業研究所「With コロナ・AI時代における新たな働き方に関するインターネット調査」

注）本業が正社員であるサンプルを対象に順序プロビット分析で推定。アスタリスク*、**、***はそれぞれ有意水準10%、5%、1%で各変数の係数が0であるという帰無仮説を棄却することを示す。

図表 6-2. コロナきっかけ副業とコロナ以外副業との間のウェルビーイング指標への影響の比較（非正社員）

被説明変数：幸福度						
	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値
副業保有状況[基準：副業希望（コロナきっかけ理由）]						
副業非希望	0.356 ***	0.227 **	0.138	-0.075	-0.135	-0.097
	5.82	2.07	0.90	-0.71	-0.52	-0.65
副業希望（コロナきっかけ理由以外）	0.424 ***	0.297 **	0.206	-0.004	-0.065	-0.031
	5.01	2.37	1.25	-0.03	-0.25	-0.19
副業保有（コロナきっかけ理由以外）	0.637 ***	0.513 ***	0.415 **	0.202	0.141	0.179
	6.31	3.70	2.41	1.51	0.52	1.08
副業保有（収入減理由）	-0.016					
	-0.10					
副業保有（家族収入減理由）		-0.164				
		-0.46				
副業保有（休業理由）			-0.058			
			-0.12			
副業保有（労働時間減理由）				-0.424		
				-1.11		
副業保有（離職理由）					-0.720	
					-0.93	
副業保有（リモートワーク理由）						1.307 **
						2.28
サンプルサイズ	2099	1750	1688	1755	1652	1685
疑似決定係数	0.028	0.023	0.023	0.024	0.023	0.024
対数尤度	-4353.4	-3610.4	-3466.3	-3601.7	-3385.0	-3457.3
Chi2値	255.0	182.9	178.3	181.9	172.0	178.7
被説明変数：生活満足度						
	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値
副業保有状況[基準：副業希望（コロナきっかけ理由）]						
副業非希望	0.374 ***	0.268 **	0.097	-0.016	-0.012	-0.205
	5.93	2.33	0.59	-0.15	-0.03	-1.43
副業希望（コロナきっかけ理由以外）	0.404 ***	0.305 **	0.131	0.022	0.026	-0.172
	4.78	2.37	0.76	0.19	0.08	-1.12
副業保有（コロナきっかけ理由以外）	0.711 ***	0.617 ***	0.441 **	0.329 **	0.331	0.141
	7.18	4.39	2.44	2.54	0.96	0.87
副業保有（収入減理由）	0.073					
	0.48					
副業保有（家族収入減理由）		-0.047				
		-0.13				
副業保有（休業理由）			-0.509			
			-1.20			
副業保有（労働時間減理由）				0.151		
				0.41		
副業保有（離職理由）					0.619	
					0.98	
副業保有（リモートワーク理由）						1.060 ***
						3.04
サンプルサイズ	2099	1750	1688	1755	1652	1685
疑似決定係数	0.025	0.020	0.021	0.021	0.020	0.021
対数尤度	-4369.0	-3617.6	-3471.0	-3602.3	-3389.2	-3449.6
Chi2値	228.8	153.4	157.3	159.1	148.2	164.6

被説明変数：本業の仕事満足度

	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値
副業保有状況[基準：副業希望（コロナきっかけ理由）]						
副業非希望	0.380 ***	0.105	0.203	0.211 **	0.052	-0.235
	6.00	0.88	1.26	2.01	0.18	-1.57
副業希望（コロナきっかけ理由以外）	0.265 ***	-0.008	0.089	0.099	-0.059	-0.347 **
	3.10	-0.06	0.52	0.82	-0.20	-2.16
副業保有（コロナきっかけ理由以外）	0.636 ***	0.360 **	0.459 **	0.461 ***	0.304	0.028
	5.94	2.42	2.52	3.35	1.02	0.16
副業保有（収入減理由）	0.214					
	1.39					
副業保有（家族収入減理由）		0.475				
		1.51				
副業保有（休業理由）			-0.330			
			-0.83			
副業保有（労働時間減理由）				0.236		
				0.66		
副業保有（離職理由）					0.347	
					0.46	
副業保有（リモートワーク理由）						0.832
						1.27
サンプルサイズ	2099	1750	1688	1755	1652	1685
疑似決定係数	0.030	0.025	0.027	0.026	0.026	0.027
対数尤度	-2924.1	-2410.6	-2310.9	-2408.7	-2261.6	-2299.3
Chi2値	182.0	126.8	132.2	132.7	125.6	130.9

被説明変数：メンタルヘルス

	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値
副業保有状況[基準：副業希望（コロナきっかけ理由）]						
副業非希望	0.351 ***	0.245 **	0.057	0.246 **	0.081	0.155
	5.94	2.49	0.37	2.52	0.36	1.16
副業希望（コロナきっかけ理由以外）	0.328 ***	0.204 *	0.017	0.215 **	0.043	0.119
	4.23	1.82	0.10	1.96	0.18	0.83
副業保有（コロナきっかけ理由以外）	0.509 ***	0.393 ***	0.189	0.387 ***	0.220	0.292 *
	5.62	3.21	1.13	3.23	0.92	1.96
副業保有（収入減理由）	-0.142					
	-0.97					
副業保有（家族収入減理由）		0.136				
		0.50				
副業保有（休業理由）			-0.352			
			-1.09			
副業保有（労働時間減理由）				-0.576 *		
				-1.80		
副業保有（離職理由）					0.020	
					0.04	
副業保有（リモートワーク理由）						0.470
						0.81
サンプルサイズ	2099	1750	1688	1755	1652	1685
疑似決定係数	0.011	0.008	0.007	0.008	0.007	0.007
対数尤度	-6848.1	-5609.2	-5398.6	-5628.5	-5271.7	-5382.2
Chi2値	155.6	92.0	83.1	100.1	87.5	81.2

出所）経済産業研究所「With コロナ・AI時代における新たな働き方に関するインターネット調査」

注）本業が非正社員であるサンプルを対象に順序プロビット分析で推定。アスタリスク*、**、***はそれぞれ有意水準10%、5%、1%で各変数の係数が0であるという帰無仮説を棄却することを示す。

図表 7-1. 副業のきっかけと将来目標別の副業保有との関係（正社員）

被説明変数	収入獲得	スキル獲得	転職・独立	趣味・余暇活用	人間関係・家族関係
	志向型副業	志向型副業	志向型副業	志向型副業	重視志向型副業
	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値
収入減	0.074 ***	-0.027	0.038 **	-0.033 *	-0.009
	4.29	-1.14	2.37	-1.72	-0.57
観測数	1888	1897	1897	1882	1891
擬似決定係数	0.05	0.03	0.03	0.02	0.02
対数尤度	-617.40	-1129.70	-669.20	-834.50	-601.50
Chi2値	64.23	70.58	42.03	36.04	19.00
収入減（家族）	0.066 ***	0.020	0.067 ***	-0.005	0.007
	2.61	0.60	3.22	-0.18	0.31
観測数	1888	1897	1897	1882	1891
擬似決定係数	0.04	0.03	0.04	0.02	0.02
対数尤度	-623.50	-1130.20	-667.10	-836.00	-601.60
Chi2値	51.02	69.51	47.05	33.95	18.36
休業	-0.047	0.108 **	0.048	0.059	0.064 **
	-1.59	2.29	1.55	1.55	2.27
観測数	1888	1897	1897	1882	1891
擬似決定係数	0.04	0.03	0.03	0.02	0.02
対数尤度	-625.70	-1127.80	-670.90	-834.80	-599.20
Chi2値	45.25	74.30	39.43	36.31	25.10
労働時間短縮	-0.085 ***	0.108 ***	0.064 ***	0.074 ***	0.055 ***
	-4.39	3.35	3.03	2.90	2.76
観測数	1888	1897	1897	1882	1891
擬似決定係数	0.05	0.03	0.04	0.02	0.02
対数尤度	-618.30	-1125.00	-667.80	-831.90	-598.10
Chi2値	59.46	80.46	46.75	41.91	27.18
離職	-0.081 *	0.204 ***	0.162 ***	0.129 **	0.089 **
	-1.94	2.95	3.93	2.41	2.28
観測数	1888	1897	1897	1897	1891
擬似決定係数	0.04	0.03	0.04	0.04	0.02
対数尤度	-624.90	-1126.00	-664.80	-664.80	-599.20
Chi2値	47.88	77.38	52.38	52.38	23.88
リモートワーク	-0.066 ***	0.115 ***	-0.032	0.057 **	0.060 ***
	-2.90	3.23	-1.22	1.97	2.82
観測数	1888	1897	1897	1882	1891
擬似決定係数	0.04	0.03	0.03	0.02	0.02
対数尤度	-622.60	-1125.20	-671.30	-834.00	-598.00
Chi2値	54.68	80.24	39.83	38.69	25.54

出所) 経済産業研究所「With コロナ・AI時代における新たな働き方に関するインターネット調査」

注) 本業が正社員であるサンプルを対象にプロビット分析で、副業に対する志向の内容別の副業保有への影響を推定。アスタリスク*、**、***はそれぞれ有意水準 10%、5%、1%で各変数の係数が 0 であるという帰無仮説を棄却することを示す。

図表 7-2. 副業のきっかけと将来目標別の副業保有との関係（非正社員）

被説明変数	収入獲得 志向型副業	スキル獲得 志向型副業	転職・独立 志向型副業	趣味・余暇活用 志向型副業	人間関係・家族関係 重視志向型副業
	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値	限界効果/z値
収入減	0.096 *** 4.73	-0.071 *** -2.66	0.034 * 1.72	-0.068 *** -2.79	-0.071 *** -3.07
観測数	1130	1136	1123	1136	1127
擬似決定係数	0.08	0.05	0.05	0.03	0.05
対数尤度	-358.60	-626.30	-396.70	-544.30	-469.90
Chi2値	58.55	66.55	44.14	37.53	54.35
収入減（家族）	0.065 * 1.85	0.045 1.08	0.021 0.68	0.026 0.68	0.036 1.03
観測数	1130	1136	1123	1136	1127
擬似決定係数	0.06	0.05	0.04	0.03	0.05
対数尤度	-368.50	-629.10	-397.90	-547.90	-474.10
Chi2値	42.68	60.00	40.58	29.76	48.43
休業	0.000 -0.01	0.054 0.97	-0.008 -0.18	-0.006 -0.12	0.073 1.64
観測数	1130	1136	1123	1136	1127
擬似決定係数	0.05	0.04	0.04	0.03	0.05
対数尤度	-370.30	-629.30	-398.10	-548.10	-473.40
Chi2値	40.40	59.29	40.43	29.22	49.13
労働時間短縮	-0.024 -0.84	0.108 *** 2.81	0.008 0.25	-0.009 -0.23	0.002 0.06
観測数	1130	1136	1123	1136	1127
擬似決定係数	0.05	0.05	0.04	0.03	0.04
対数尤度	-370.00	-626.00	-398.10	-548.10	-474.60
Chi2値	40.65	64.88	40.63	29.55	47.11
離職	-0.088 -1.64	-0.081 -0.92	0.003 0.04	-0.039 -0.44	0.077 1.11
観測数	1130	1136	1123	1136	1127
擬似決定係数	0.06	0.04	0.04	0.03	0.05
対数尤度	-369.20	-629.40	-398.20	-548.00	-474.20
Chi2値	41.55	59.38	40.44	29.66	47.68
リモートワーク	-0.075 * -1.82	-0.063 -0.97	-0.056 -1.19	-0.013 -0.22	0.072 1.42
観測数	1130	1136	1123	1136	1127
擬似決定係数	0.06	0.05	0.05	0.03	0.05
対数尤度	-368.60	-629.20	-397.50	-548.10	-473.60
Chi2値	44.17	58.88	44.00	29.26	49.17

出所) 経済産業研究所「With コロナ・AI時代における新たな働き方に関するインターネット調査」

注) 本業が非正社員であるサンプルを対象にプロビット分析で、副業に対する志向の内容別の副業保有への影響を推定。アスタリスク*、**、***はそれぞれ有意水準 10%、5%、1%で各変数の係数が 0 であるという帰無仮説を棄却することを示す。